

# 居

合をするときに何を身につけるかは、試合や演武、審査でのパフォーマンスにも大きな影響を与える。

主に六段以上の演武においては紋付き・袴が一般的だが、五段以下では稽古でも試合や演武でもテトロンなどで作られた居合衣・袴が普通である。しかし従来の商品には汗を吸いにくかったり、体にまつわりついて動きを妨げたりするものもあった。

また、居合専用衣が商品化される以前剣道家の一部だけにしか居合が広まっていなかった時代から使われていたのが木綿の剣道着。現在でも使われているが、厚手で安全性が高いという利点はあるものの、重く、立ったり座ったりという動作を妨げるという欠点もある。

近年、居合衣は急速に進化している。さまざまな化学繊維を採用し、居合道の動きを研究した独自の工夫を加えることで、これまでの欠点を克服した、動きやすく、汗抜けもよく、メンテナンスも楽な居合衣が生まれているのだ。

全国大会で活躍する二人の若手居合道選手に話を聞いた。動きも激しく稽古量や試合出場の間も多岐にわたるには共通点がある。それは何を着るかが居合の技術に大きな影響を与えるという認識だ。それぞれが持つ居合衣・袴へのこだわりと、現在愛用している京都東山堂で制作の商品の特徴について語ってもらった。



若手実力派に聞く

決め手

写真 窪田正仁、編集部



居合衣セレクション

居合衣選びの



【はらだ わたり】昭和50年石川県金沢市生まれ。幼稚園から剣道を始め、東海大学進学後居合道部に入り、古市典雄・現居合道教士八段に師事する。卒業後、東海大学総合情報センターに勤務のかたわら居合道部のコーチをつとめ、古市教士の湘志会武道塾で稽古を続ける。平成19年、全日本居合道大会五段の部優勝、平成22年、23年同六段の部2位。夢想神伝流

# 原田渡

さん(錬士六段)



筒袖のふくろひだにより、二の腕の動きが自分で感じられるように

神奈川県原田渡さんは平成19年に全日本居合道大会五段の部で優勝。六段に昇段してからも昨年、一昨年と2位に入賞、他の各大会でもつねに上位の戦績を残している。

現在、原田さんが着用している居合衣は、京都東山堂オリジナルの「最高級ポリエステル居合道衣・袴」である。どんな点が原田さんの琴線に触れたのだろうか。「重さがあるのがいいです。私の場合、軽すぎるとしっくりこない感じがあつて、このどっしり感が好きですね。それに、袖に十分なふくらみがあることで、中腕が動いているのを感じることができのうがいいですね。他にも試してみた商品があつたのですが、汗を吸わないというか、熱がこもっていく感じがありました。そ

れに比べると、この居合衣は速乾性があります。

袴のほうもそうです。バサバサする感じがまったくなくて、からまない。汗をいくらかいても絶対に引つかからないというか、スーツと抜けていく感じですよ。これまで履いていた袴では、足に引つかかってバランスを崩したりすることもありました」

原田さんにとってこの居合衣は試合用なので普段は着ないが、試合が近づくと週に一度は着て稽古をするという。いきなり試合で着ると感触が違うので慣れさせておくのだ。手に入れて1年半ほどになるが、買ったときとほとんど状態が変わらないという。

以前はノーマルな昔ながらの居合衣・袴を着ていたが、使えば使うほど袴の襷がとれ、広がっていつてしまった。とくに膝のところは床に擦るので襷はとれやすく、破れてしまうこともあつた。しかし、この居合衣は痛みがほとんどなく、洗濯したあとも、そのままたんで置いておけば大丈夫だという。

もう一つ大切なのが見た目である。「少して、かりという光沢があるのも、メーカーのこだわりだと思いますが、それが体を大きく見せてくれます。自分の演武のビデオや写真を見たときにそう感じるがありますね。居合は見た目も重要です。すごくしっくりくるので、着ていて『どの居合衣ですか?』と聞かれることも多くなりました」



足の大きな動きにもひっかかることがない



袴は床に擦れるので痛みやすいが、この袴は破れにくく、襷も消えにくいという



[ういりあむ ぶらいやー] 昭和56年大阪府堺市生まれ。本人の喘息治療のために一家で京田辺市に転居し、母が森田忠彦教士の整体院に通ったことがきっかけとなり、居合を勧められて始める。同志社大学では居合道部に所属し、現在は母校でコーチも行なう。職業は自ら会社を興し教育系のコンサルタントや研修、講演・セミナー活動、映像制作などを手がける。平成21年、23年の2回、全日本居合道大会出場。無双直伝英信流

# ウイリアム・ブライヤーさん(五段)

もともと居合衣の重要性は意識していた



アメリカ人の父と日本人の母の間に生まれたウイリアム・ブライヤーさんは、高校卒業まで人生のほとんどが病院での入院生活だったというほどひどかった喘息を治すため、京都府京田辺市の鹿志館で



軽いので、下半身の激しい動きの邪魔をしない



肩が動かしやすいことが最大の特徴だとい

居合道を始めた。

やがて喘息も良くなり、同志社大学居合道部でも活躍、卒業後も各大会に出場、全日本居合道大会五段の部にも二回出場している。

ブライヤーさんが今普段の稽古で着用しているのは、京都東山堂の「打ち水居合衣『風流』」である。非常に軽い点が気に入っている最大のポイントだ。

「一番気に入っているのは軽さです。非常に軽いので、肩のあたりがとても動かしやすいのが最大の特長ですね。袴については、たとえば袴さばきをするときの手触り感や手応え、袴の折れ曲がり方とかが違っており、自分の感覚をそのまま動きに出しやすいと感じています。」

また、稽古ではすく汗をかきますから、汗の吸収性・速乾性は大切です。これは汗がとでも早く乾くので、稽古中も不快感や重たさを感じませんし、家に帰ってきてからのメンテナンスも楽です

ね。洗濯をした際、冬場であっても一晩と待たず完璧に乾きます」

鹿志館の森田忠彦館長(教士八段)からは、「着付けに稽古3年の差が出る」と教えられた。そんなこともあってブライヤーさんは、これまでいろいろな居合衣を試してきたという。

「どのように帯を巻くか、どういう道衣を着るかで自分の感覚にはかなりの違いが生じます。試合の前は必ず試合用の居合衣を着用して稽古をしますが、やはり稽古用と試合用では感覚が変わりますね。この居合衣は本番でも着られる美しさがあります。稽古と試合を同じ感覚で取り組めるのは、とても大きなことだと思います」

各地の大会に頻繁に出場しているブライヤーさん。この居合衣はまだ手に入れて日が浅いので試合には使用していませんが、たぶん使用することになるだろうと言

のように二人が着用している居合衣のほかにも、東山堂では以下のようなラインナップが揃っている。

◆【冬用保温性居合道衣「焔」】……フルダル・ポリエステル「ダルフィン」を表側に、東洋紡の特化改質綿を肌側に用いたアルフィラを用いた居合道衣。アルフィラは皮膚生理保護性を追求したニツト生地で、高い保温効果を実現している。

◆【高級京ちりめん居合衣「風雅」】……高級感あふれるちりめん調のポリエステル生地による、独特のさらりとした爽快な着心地。吸湿速乾性。通気性にも優れた、夏場や激しい稽古にお勧めの居合衣。

◆【キュービックセンサーストレッチ「煌」】……左写真参照。演武や昇段審査にお勧めの着物袖もある。

これらの居合衣をはじめとした武道用



【最高級ポリエステル】

頑丈で重量感のある生地。静電気防止の特殊糸を織り交ぜた東レの超静電性裏地ルアナを使用。2009年発売。

■居合衣¥17,000 ■居合袴¥17,000円 ■居合帯¥5,000円



【打ち水居合衣「風流」】

新素材生地打ち水を使用した居合衣・袴。気化促進繊維が汗の蒸発を積極的に加速させることで衣服内を冷却し、汗を味方に変える新素材。吸汗・速乾にも優れ汗冷えを抑制。2010年発売。

■居合衣¥17,000 ■居合袴¥18,000



【キュービックセンサーストレッチ「煌」】

スポーツ用品にも使われている伸縮性のある生地。非常に軽量で動きやすさを追求している。また、吸汗・速乾にも優れており、汗によるべたつきも防止する効果がある。

■居合衣¥18,000 ■居合袴¥18,000

の衣類は、東山堂の京都西陣自社縫製工房にて製作されており、和装職人の熟練した技で一着一着丹精込めて仕立てられる。東山堂の居合衣の特長といえば、居合道家の視点に立った仕立てをすることで、商品を開発する前の段階で、居合経験者のスタッフやユーザーの声を幅広く取り入れ、充分に試作を繰り返して完成する。たとえば「おくみ」を入れて着崩れがしないように考慮されていたり、襟を厚くすることで首筋が抜けにくくなりといった特長はすべてユーザーの意見が反映されたものだ。使用者の体型や性別に合わせての仕立てや調整も可能で、スタッフも気軽に対応してくれる。

和装束製作の経験もある製作担当主任の近藤弘美さんは、「居合道や剣道、合気道といった武道はそれぞれの独特の所作や動きがあるので、仕立てるときはそ

れらのイメージを持ちながらつくるようにしています。映像だけでなく実際の演武なども見たり、使用された方の意見も機会があれば聞かせていただいています。一着ごとに一期一会の気持ちで作っています」と常に探究心をもって武道衣の製作に取り組んでいる。

裁断や縫製だけでなく、どのような生地を使うかも大きなポイントだという。二人のように重めの道衣を好まれる剣士や軽量タイプの道衣を好まれる剣士など着用者の好みはさまざまである。また、汗が多い夏場や静電気が発生しやすい冬場といった季節的なものから、耐久性や仕立てたときのシルエットといった素材的なことまで踏まえ、幅広いニーズに合わせられるよう、材料選びに余念がない。

東レやユニチカといった大手の新素材を取り入れた商品は発売以来、好評を博

しており、居合衣の開発担当の藤原貴之さんは「これからも新しい素材をどんどん試してお客様に喜んでもらえるような商品をつくっていきたいです。居合の会場で僕を見かけたら『こんな道衣を作れないのか?』と気軽に声を掛けてください」と語る。

今度はどんな武道衣を東山堂が登場させるか、楽しみだ。



製作担当主任の近藤弘美さん

# 京都東山堂

株式会社東山堂

●西陣本店 TEL075-432-1600 (代)

●聖護院店 TEL075-762-1341

http://tozando.com